

THE Y'S MEN'S CLUB OF NASU NETWORK NASU CHARTERED 1995



那須ワイズメンズク

2017~2018年度 No.231

4月 月報

那須クラブ会長 主題
地域につなげ那須ワイズ



強調月間：L T



3月(ユースリーダー活動報告)例会 3月22日 於：日本キリスト教団 西那須野教会

2018~2019年度 主題
 国際会長：(IP) Moon Sang Bong (韓国)
 「私たちは変えられる」
 アジア地域会長：(AP) 田中 博之(東京多摩みなみ)
 「ワイズ運動を尊重しよう」
 東日本区理事：(RD) 宮内 友弥(東京武蔵野多摩)
 「為せば、成る」
 北東部長：涌澤 博(仙台青葉城)
 「チャンス到来 われら北東部から世界へ」

クラブ役員 事務局
 会長：河野 順子
 副会長：村田 榮也
 書記：田村 修也
 書記：藤生 強
 会計：村田・鈴木
 担当主事：藤生 強
 プリテン：田村・村田

3月例会データー(出席率：83.3%)
 在籍者 6名
 例会出席者 5名 メネット 1名
 コメント 1名、ユースリーダー 1名
 YMCAスタッフ 1名

今月の聖句
 急いで行って弟子たちにこう告げなさい。「あの方は死者の中から復活された。そして、あなた方より先にガリラヤに行かれるそこでお目にかかれる。」

マタイによる福音書28：7

4月 Happy Birthday

巻 頭 言

田村 修也

思い起こし語りだせ

三寒四温の候はとうに過ぎて桜の開花が早まるかと思っていた矢先、急に寒気団が来襲して、寒い那須風に冬物のセーターをあわてて着込むという不安定な日が続いています。それでもやはり4月は4月です。桜前線は北上して、我が家の前の宗源寺のヒガンサクラもコンビニ前の妙要寺のヒガンサクラも咲き始めました。桜が咲き始めると那須ワイズは春の植樹例会の準備を始めます。

何時から始めたかは確かな記憶はありません。しかし記憶を辿っていくと、2002年3月15日に西那須野ライオンズクラブからの依頼で、「西那須野町の緑と水」の講和をしたことに端を発しているようです。その時に西那須野町や黒磯市始め、那珂川流域の全域が、どれほど那珂川の恩恵を受けているかを再確認させられたからです。

それで、那珂川流域の水源地域に感謝の気持ちを込めて、また水源林の大切さを心に刻むために何が出来るかを考えていて、水源地への植林活動へと導かれたのです。

その様な経緯で、国有林の協力を得て塩原大沼園地周辺のヒノキ伐採跡地の自然林復帰のための植樹活動が始まりました。当初は、前生樹がケヤキ、コナラ、クリ等ということで、各自それらの苗木を持参して植林をしました。那須地方にはかつて薪炭生産のためのコナラ、クヌギの植栽が盛んであったので、今でも那須地域の林はコナラを中心とした林が方々に残っています。特に放置された別荘分譲地周辺は側溝の中にコナラの実生苗が生えていますので、根を痛めことなく採取できましたので、その苗を持参しました。2005年10月15日秋の植樹には、那須在住の東京Yの丹羽理事や各種団体そしてYMCAのボランティアリーダーたち3~40名が集まって甘湯に下る歩道沿いに植林しました。2006年の4月29日には33名が参加、2007年4月28日には8団体28名が参加して、残雪のなかにミズバショウが咲いているのを楽しみながら植林をしました。

2008年4月29日からは、那須街道の赤松林が強風やマツクイムシの被害で減少し続けているので、その後継樹を植えて欲しいと言う国有林の要望で、那須街道赤松林での植樹活動が始まりました。この年は黒磯のガールスカウトはじめ11団体42名が参加しました。GSの団委員長は那須ワイズの

メンバーでした。

今年も4月27日連休の最初の土曜日に植樹活動を計画しています。今年も昨年春の植樹に参加してくれた、福島県の建設会社の方々から参加の連絡を頂いています。

「木を植えた人」という本がありました。植え続けた木々が立派に育って、水源林としての機能を発揮し続けてくれることを期待して、春秋の植樹活動を続けて行きたいと願っています。

3月(ユースリーダー活動報告)例会

書記 藤生 強

日時: 2019年3月22日午後6時30分~8時

場所: 西那須野教会1階ホール

参加者: 河野、田村、鈴木、藤生、村田の各メン。田村メネット。鈴木コメット1名。YMCAスタッフ1名。ユースリーダー1名

3月例会は「那須YMCAユースボランティアリーダー報告会」を行いました。リーダー達の多くは帰省中(大学が春休み)のため、ベコリーダー(五十嵐くん)1名のみでの参加となりました。始めにベコリーダーと那須YMCA担当スタッフ平山より、那須YMCAリーダーが中心となって活動している『Yキッズ』の報告がありました。この活動はオールとちぎYMCAにて行う子ども達の入門野外活動であり、各月の活動内容とテーマ、そして活動の様子をスクリーンに映し出された写真を見ながら報告されました。ベコリーダーは大学1年生でありリーダー1年目でしたので、戸惑いの中でリーダーデビューをしたこと、子ども達との活動はとても楽しかったこと、2019年度シーズンも楽しみであることなどを話してくれました。次に昨秋に行われた日本YMCA大会に参加したぷりんリーダー(寺島さん)のレポートをYMCAスタッフ平山より紹介をしました。YMCA大会の様子をスクリーンに映し出し、学びそして感じたことの報告がされました。2つの報告にリーダー達の活躍と成長を感じ、嬉しく思いました。

4月第2例会(役員会)報告

日時: 4月5日(金)午後1時20分~

場所: ココス西那須野乃木店

出席者: 河野会長、田村副会長、村田副会長、藤生担当主事、平山YMCAスタッフ
協議事項

1. 4月(植樹)例会

4月27日(土)午前10時那須街道赤松林の駐車場集合で植樹を行う。別紙案内を参照しながら話し合った。竹クイの準備は村田(100本)。案内はガールスカウトを含めいつものところとユースリーダー。マジックはYMCA。塩那森林管理署吉江さんとの打ち合わせは、4月10日午後4時より河野会長、田村副会長で行う。保険は田村副会長に一任。

2. 5月例会の件

5月31日(金)の午後1時30分に塩谷キャンプ場に集合し、散策と今後のキャンプ場の活用について話し合う。

3. 6月例会の件

塩沢総主事を古今で那須YMCAの活動の今後について話し合う。日程は、塩沢総主事との日程調整を行う。

4. 4月ブリテン発行について

5. 5月第2例会(役員会)について、5月10日(金)午後1時からココスで食事を取りながら行う。

6. その他(今後の予定)

- ・アジア学院入学式 4月13日(土)午後1時30分より
- ・3回北東部評議会 4月20日(土)午後1時から仙台YMCA 村田が出席。
- ・宇都宮ワイズ40周年 5月18日(土)2時45分から宇都宮美術館。皆さんの都合を確認する。
- ・第22回東日本区大会 6月1日(土)から2日(土)(国立オリンピック記念青少年総合センター。村田が出席予定。
- ・第28回アジア太平洋地域大会 7月19日(金)~21日(日)(仙台国際センター)21日(日)の午後北東部会が行われる。

3月特別(2019希望の凧揚げ)例会

東日本大震災から8年、今年も「震災を語り継いでいく」「被災地の方々を思い、共に考える」ことを願って、3月9日(土)にふれあいの丘において「揚がれ希望の凧! 2019」を開催いたしました。当日は天気がとてもよく、風も強すぎず弱すぎずと丁度良い風が吹いていました。

サタデークラブ・スマイリークラブそして、沢山の一般の方のご参加もあり約60名も集まることが出来ました。「震災を語り継いでいく」「被災地の方々を思い、共に考える」ことを願って、それぞれが作ってきた色とりどりの希望の凧を飛ばすことが出来ました。



また、栃木県内では那須・宇都宮・足利の3会場で行われました。

那須ワイズより河野会長、村田副会長、藤生担当主事が参加

しました。予告と報告の記事が掲載された。

予告の新聞記事(下野新聞)

【大田原】東日本大震災の被災地を思い、復興を願って凧を揚げるイベント「揚がれ!希望の凧2019」が9日、福原の市ふれあいの丘芝生広場で開かれる。

震災復興への思いを託した「希望の凧」を揚げることで、大震災の記憶を語り継ぐと、全国のYMCAが2012年から実施している。県内ではとちぎYMCAなどが主催し、今回は那須YMCAと那須ワイズメンズクラブが共催する。「ふれあいの丘」は震災後、福島県内の被災者の避難所になっていた。

午後1~3時。震災発生時刻の

復興の願い 被災地に届け 大田原で凧揚げ

午後2時46分に黙とうをささげる。参加無料。凧は持参する。持っていない人は当日会場で購入することができ、益金は被災地に寄付される。宇都宮、足利の両市でも10日に実施される。

問とちぎYMCA028・62 4・2546。(小口華奈子)

昨年、宇都宮で開かれたイベントの様子(とちぎYMCA提供)

報告の新聞記事(読売新聞)

希望の凧を揚げる参加者(9日、大田原市福原の市ふれあいの丘で)

復興願い、凧あがれ

大田原市福原の市ふれあいの丘芝生広場で9日、東日本大震災の被災地を思い、復興を願うイベント「揚がれ!希望の凧2019」が行われた。

とちぎYMCAが2012年から開いて

いる。大田原での開催は16年以來で、4回目。

会場には那須塩原市の西那須野幼稚園の園児や、ボランティアの国際医療福祉大生、親子連れなど計50人ほどが集まり、抜けるような青空に凧を揚げた。震災で地震が発生した午後2時46分には参加者全員が凧揚げをやめ、黙とうをささげた。

市ふれあいの丘は震災当時、福島県内の被災者の避難所となった。企画したとちぎYMCAでは「凧を揚げることで震災の記憶を忘れないことが大切です」と話していた。

イベントは10日も、高根沢町の鬼怒グリーンパークと足利市の渡良瀬運動場で行われる。

今後の予定

・ 第3回北東部評議会

日時：4月20日（土）午後1時～

場所：仙台YMCA

・ 4月（植樹）例会

日時：4月27日（土）午前10時～

場所：那須街道赤松美林

・ 5月第2（役員会）例会（予定）

日時：5月10日（金）午後1時から

場所：西那須野ココス乃木店

・ 宇都宮ワイズ40周年記念式

日時：5月18日（土）午後2時45分～

場所：宇都宮美術館

・ 5月第1（塩谷キャンプ場視察）例会

日時：5月31日（金）午後1時30分集合

場所：塩谷キャンプ場

旧西那須野（那須西原）の緑と水（第72回）

田村修也

思った以上に遠回りをしてしまいました。本筋に戻って「大水路開鑿着工から竣工まで」に入ります。明治18年の4月初旬、印南さんと矢板さんはまだ東京に滞在中でしたが、大水路開鑿が認可されたという内報があったので、那須開墾社は急に忙しくなり活気を呈してきました。4月5日には樺山資雄県令が属官や郡吏など多数を随えて来社し、その後国の疏水掛羽根田と田代の両名も来社して、工事着工の準備に取りかかりました。4月6日には水路掛官が来社して、人夫募集のため職工頭分の者を6～7名呼んで相談をしました。

那須開墾社の農業日誌によりますと、4月7日には、斉藤半次郎、大水路関係要務で大田原に出張した。斉藤半次郎は、算、筆に堪能で、那須開墾社の会計事務を取り扱っていました。有能な社員として、疏水工事関係その他で、社長や幹部が出張中は、一切の社務を取り仕切っていました。その後、町村制が施行となった際、那須野村創設初代村長にも推され、明治21年に印南丈作社長が逝去した際には、社内人事で矢板武社長のもとで幹事として重責を果たしています。那須開墾社が成業し解散となる前には、株主の列にも加わっていました。

4月8日には水路の要務で、斉藤・坂本の両名が岩崎に出張した。この日、岩崎隧道第2番工所が無事貫通の報がもたらされた。4月10日には、斉藤半次郎が大水路の要務で、午前7時出発宇都宮に出張した。4月11日には、来る4月15日に大水路起工式を挙げるので、式場にする烏ヶ森の掃除に取掛った。4月13日午後4時30分頃、印南社長、水路指令済にて佐久山の自宅まで帰り、そこより大田原に至り、明後15日日の起業式の用意をなす。本社より、斉藤、安藤、沼井同所塩樓に至り種々相談に預る。

4月14日、斉藤は昨日より大田原に居続いで、明日の事務を執る。沼井は早朝三島村に至り、烏ヶ森掃除人夫及び大田原まで四輪馬車一台を差向くるよう依頼す。早速来る、それにより大田原塩樓に至る。塩那両郡有志戸長諸員への招待状を持参し各所に配布す。烏ヶ森掃除及び賄小屋かけ等をなす。その人夫、本社囚人、農夫、移住人一同、加治屋開墾場の農夫、囚人、三島村囚人・移住人一同、各社各世話に出張す。疏水課長南権少書記官一同、正午三島村御着。以上が那須開墾社日誌の抜粋ですが、当時の状況を想像することが出来ます。このようにしていよいよ15日の疏水開鑿の起工式の日を迎えることになりました。印南さん矢板さんを始め、開墾関係の人たちはこの日をどんなに待ち望んでいたことでしょうか。明治18年4月15日、永久に記念すべき那須疏水開鑿事業の起工式の日になりました。この日の情景は、やはり那須開墾社の日誌自からに語ってもらうことにいたします。

4月15日晴 本日は起業式の当日につき、那須、加治屋、三島三社の人夫、移住民一同、詰寄り、各社その監督人を出し、万事手配整い、今や御着を待ち受けたり、其景様は、第一段式場、第二本県令、疏水官、各課長、各郡長、御招待所、第三各戸長、各有誌者、警官、職工、小頭等の諸員の接待所あり。本県令御着。正午直に神官の楽あり、次に起業式あり、疏水課長、勸業課長、那須郡長、各員の祝辞あり、夫より一同酒宴を開き、凡そ一時間にて、県令始め大田原に御引揚げ相成候、誠に盛会と云うべし。簡潔な記載ですが、当日の盛況を想い浮かべることが出来ます。昭和30年西那須野町公民館がスライド教材「那須野の水」を製作しました。その時の原画を描いた方が雲照寺住職の草野栄龍師です。草野栄龍師は昭和47年には、真言宗東寺派の管長に就任し、大僧正となって東寺派の最高の地位に就かれた方です。そのスライドの中にこの起工式の場面があります。機会がありますれば、載せたいと思いま

す。(以下次号へ)

西那須野幼稚園だより

学校法人 西那須野学園 西那須野幼稚園
園長・理事長 福本 光男

入園・進級して一週間になろうとしています。

さて、特に新しく入られた子どもたちは、人生において家庭から社会へ初めての一步を踏み出したばかりのところ。慣れるまでは登園をいやがったりすることは、ある意味では当たり前のことです。朝は励まして、帰ってきたら褒めてあげてください。在園児もクラス替えて同じような心境の子どもたちもおりますので、宜しくご理解・ご協力お願い致します。

さて、12日から自園調理の給食が開始されました。給食については、毎年同じ説明をさせていただいております。本園の給食の歴史は、県内においてもパイオニアです。開園当時、いつもご飯とキュウリの漬け物で、お弁当箱を隠しながら食べている子どもがおり、前福本治夫園長が、幼稚園では皆同じであるということで、1962年から給食が開始されました。

本園の献立は、4月を除いて、前月に献立案を栄養士が作り、幼稚園は教務主任、集団主任、そして保育園長で構成される給食委員会とクラス1名の保護者代表の給食諮問委員で検討した上で実施されます。また、給食諮問委員の方には、自分の子どもがいないクラスで、月1回試食もお願いしているところです。食物アレルギーや宗教的タブーもあり、別に調理するなど、可能な限りの対応をしています。今年度は保育園も合わせて栄養士2人、管理栄養士1人体制で更なる向上を目指します。

また、給食は食育、教育の観点からも素晴らしい教育要素の一つです。幼い時に和洋中に代表される様々なメニューを食し、同じ食べ物を大切に分け合う体験はとても重要です。食べ物を大切にすることは、ある意味に於いて命や環境を大切にすることにつながるからです。日本の学校給食、レストラン等で食べられるものが、残飯として年間1000万トンがゴミとして捨てられています。これは日本で生産されるの米の1年分と同じ量にあたります。「エコノミー(経済)」の原語は、「オイコノミア」で、その意味は「家庭を切り盛りする」ということです。地球を一つの家と考え、食べ物が無く食べられずに飢えている兄弟姉妹に食べ物を分けないで、捨てているということになります。

幼稚園の給食では、神様、生産者、調理者に感謝してから、皆が同じものを分け合ってください。この日常的な「分かち合い」の経験の積み重ねは、きっと子どもたちの将来に渡って影響する教育のひとつとつとを考えています。

食の放射能対策ですが、那須地域は、2011年の東電原発事故により福島県の中程度の汚染がありました。現在も毎日園庭の空間放射線量を測り、給食はアジア学院ベクレルセンターで1食分をミキサーにかけて、陰膳方式で測定しています。結果はしらゆりでご報告しています。給食で提供する汁、水筒のお替わり用水は、給食室にある逆浸透膜浄水機で、水道水の放射能等を除去した水を利用しています。

(2019.4 しらゆり原稿加筆修正)

アジア学院だより

学校法人 アジア学院
校長 荒川 朋子

新学期に際して

2019年度のアジア学院の研修が始まった。今年15カ国から26名の農村リーダーたちを迎え入れた。毎年1番最初の授業は校長が担当する「アジア学院の設立の歴史、建学の精神、ビジョン」だ。その授業の準備に当たっては、アジア学院の創設に関わった故高見敏弘先生の書かれたものを多数読み返し、私自身、先生の精神に改めて触れ鼓舞されることしばしばである。

そこで今回は1974年7月15日のアジア学院のニュースレター「アジア学の土」に掲載された高見先生の文章から以下を抜粋して紹介したい。この文章の前半部分には、書かれた1か月半前に高見先生がニューヨークで開かれた「飢餓と開発に関する協議会」という国際会議に参加し、世界の深刻な食糧不足に際して、大量の餓死者が出るとの推測の報告が米国の国連大使からなされ、それに対しこの問題に取り組むために緊急委員会を組織して各界に働きかけることが決議されたが、具体的な行動に関する提案は何も出なかった、という報告が書かれている。そしてその集まった人々が、あれもない、これもないという「無い無いづくし」に基づく発想しかせず、可能性を見出そうとするよりも、「先ず問題性、不可能性を考える性癖を持っているように思う。そして自らをジリ貧に追いやるのだ。」と辛らつに批判する。そして、それでは私たちはどこの可能性を見出すのか、と問うくだりである。

「可能性を求めて」 より

世界総人口37億の約57%にあたる21億がアジアの人々であり、その大部分が開発途上国のひもじい人々、ジリ貧の中の人々である。そこにこそ可能性を見出さねばならない。現下の人口と食糧危機を解決する可能性をアジアのどこに見出すのか。それをひもじい人々の中に見出さねばならない。数十年、数百年にわたって自然の脅威、社会的搾取等の重圧にジッと耐え、乏しさを分かち合いながら、無学文盲でありながら、なおかつ伝統的文化を守りつつ生きつづけてきた民衆の逞しいエネルギーの中に可能性が秘められていると思う。大体、慢性的食料不足の中で、ドンドン増えつづけているのは、誰よりもこれら“ひもじい”民衆”なのであり、これら当事者がその気にならなければ人口と食糧問題が解決に向かわないであろうことは明白ではないか。それには、その民衆の向上運動の中核となる指導者—草の根のチーム・リーダーの養成こそが、たった今しなければならぬ重大なことなのである。アジア学院・東南アジア農村指導者養成所（当時の名称）はこれらリーダーの養成に専心している。その使命の重大さ、至難さを痛感するものである。

今年もまた、アジア学院に集まった仲間の中に大きな可能性を見出す大切な仕事が始まる。しかし、可能性はもうすでに見えている。彼ら、彼女らはやる気満々である。このエネルギーに圧倒されて、力を得るのはむしろいつもこちら側である。

YMCAだより

【リーダー感謝会を行いました！】

3/23(土) YMCA体育館に約40名のリーダーが集い、5名のリーダーを送る感謝会が那須・宇都宮合同で行われました。YMCAでは欠かせないユースボランティアリーダーが沢山おり、毎年3月には大学を卒業するリーダーがいます。そこで、いままでYMCAの『力』となってくださった感謝を込めて、祝う会を開催いたしました。また、那須ワイズよりあゆリーダーには記念品が贈呈されました。

4月からのそれぞれの地でのご活躍をお祈りいたします。

- ・直井彩花（あーりん）：川崎市の小学校
- ・関美里（わーみー）：栃木県の小・中学校
- ・栗田純香（くりす）：茨城県の幼稚園
- ・菊地悠加（ますかっと）：道の駅ろまんちっく村
- ・石田翔（チャーリー）：北海道大学院（Y寮）
- ・鮎ヶ瀬菜那（あゆ）：西那須野幼稚園

「塩谷キャンプ場整備」の報告

3/24(日)もっちゃんリーダー、ぷりんリーダー、しんちゃんリーダー、荒井（マリオ）リーダーが塩谷キャンプ場の整備を行いました。



【とちぎYMCA・那須YMCA 4月の予定】

- ・4/1(月)とちぎYMCA職員就業礼拝@宇都宮市青少年活動センター（トライ東）
- ・4/6(土)とちぎYMCA職員歓送迎会@さくらんぼ幼稚園体育館
- ・4/20(土)サタデークラブ@ふれあいの丘
- ・4/27(土)サタデークラブ@ふれあいの丘
- ・那須YMCA 英語クラス：4/8(月)より新年度開始
- ・西那須野幼稚園運動あそび：4/11(木)より新年度開始予定
- ・西那須野幼稚園英語あそび：4/12(金)より新年度開始予定
- ・西那須野幼稚園サタデークラブ：4/20(土)新年度開始

編集後記

- ・リーダーのつぶやきはお休みとさせていただきます。
- ・今月の発行も遅れてしまって申し訳ありません。
- ・後期会費の納入をお願いします。

2018～2019年度

那須ワイズ4月植樹例会のご案内

2011年3月11日の東日本大震災から8年目を迎えます。風化させない、忘れないで、更なる復興を祈り続けましょう。防災のため地球温暖化防止対策のために植林が進められています。

あなたの手で 緑を育てませんか

4月恒例の植樹例会を下記により実施いたしますので、お誘い合わせの上ご出席下さるようご案内いたします。小雨決行ですが、晴天になるように今からお祈り下さい。

1. 月日 2019年4月27日(土曜日) 現地集合(那須街道赤松林入口の駐車場に10時までにお集り下さい)

(植樹等実施予定地は2018年秋に実施した所の隣接地付近です)

2. 行先 那須街道「赤松美林」 塩那森林管理署指定植林地
3. 内容 植樹等・歩道清掃と那須野が原開拓・那須疏水史跡巡り
4. 行程予定

タイムスケジュール	内 容
10:00	「那須街道赤松美林」着
10:30	赤松苗木の植え付け等
12:00	昼食・赤松美林周辺散策と歩道清掃(自由参加)
13:00	旧開拓農場跡探訪等(自由参加)
14:00	現地解散

5. 費用 必要なものは各自負担
6. 装備 個人装備:雨具、手袋(軍手)、タオルなど
7. お弁当、必要があれば近くのコンビニで
8. その他 必要と思うもの

9. 参加者は全員保険加入をいたします

10. 塩那森林管理署のスタッフの皆様には今回も大変お世話になります。苗木・唐鋸等用具は森林管理署で準備して下さいます。

※那須ワイズメンズクラブ会長河野順子 担当田村修也 ※全員保険に加入いたしますので、ご参加の方は田村(090-5545-6763)宛、4月22日(月)までにご連絡お願いいたします。